

横浜トリエンナーレ

平成30年9月21日

横浜市文化観光局文化プログラム推進部長

神部 浩



- 1997 外務省が国際美術展の定期開催方針を発表
- 1999 横浜トリエンナーレ組織委員会(国際交流基金、横浜市、NHK、朝日新聞社)設立
- 2001 横浜トリエンナーレ2001「メガ・ウェイブー新たな総合に向けて」開催
- 2005 横浜トリエンナーレ2005「アートサーカス[日常からの跳躍]」開催
- 2008 横浜トリエンナーレ2008「TIME CREVASSE タイムクレヴァス」開催
- 2010 横浜トリエンナーレ組織委員会の構成が横浜市、NHK、朝日新聞社の3者となる
※2011年展から文化庁にご支援いただくこととなる
- 2011 ヨコハマトリエンナーレ2011「OUR MAGIC HOUR—世界はどこまで知ることができるか?—」開催
- 2012 横浜トリエンナーレ組織委員会の主催者に(公財)横浜市芸術文化振興財団が加わる
- 2014 ヨコハマトリエンナーレ2014「華氏451の芸術:世界の中心には忘却の海がある」開催
- 2017 ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」開催



横浜トリエンナーレ開催実績

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
開催年	2001	2005	2008	2011	2014	2017
総事業費 (3か年)	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9.6億円
総入場者 数	約35万人	約19万人	約55万人	約33万人	約21万人	約26万人
チケット 販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚	約10万枚	約10万枚
報道実績	237社以上 (うち海外36社 以上) ※掲載件数は 記録なし	1,089件 (うち海外40 件)	1,233件 (うち海外165 件)	1,763件 (うち海外139 件)	3,899件 (うち海外117 件)	6,923件 (うち海外314 件)
パブリシ ティ効果	—	—	—	約47億円	約52億円	約50億円
経済波及 効果	—	—	—	約32億円	約23億円	約35億円

使命

横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として、**文化芸術創造都市・横浜の発展をリード**するとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。

アートでひらく

世界とつながる

ナショナルプロジェクトとして、横浜から新しい価値観と新たな文化を継続的に世界に届け、国際交流と相互理解に貢献します。

まちにひろがる

文化芸術創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。

ひらかれた現代アートの祭典として、誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を超えた理解を促進します。

目標

行動指針

・世界水準・次世代育成・社会包摂・市民参加・祝祭性・賑わいづくりと経済活性化

ヨコハマトリエンナーレ2017 島と星座とガラパゴス

**Yokohama Triennale 2017
"Islands, Constellations and Galapagos"**

会期 2017年8月4日（金）～11月5日（日）

来場者 約26万人

※障害のある方及びその介護者の方
約9,362人

報道数 6,923件（うち海外314件）

横浜トリエンナーレを継続していく上での課題



・会場の確保

・予算の確保

・人材の育成